

あつぎの給食の移り変わり 小学校全校自校式まであと6校

今週の活動から



市内のあちこちで都市サインの設置が進んでいます。本厚木駅前広場の方面別バス発着所の案内看板です。看板設置の費用は企業の広告で賄っています。（釘丸久子議員）



1月31日荻野運動公園で第62回あつぎ駅伝競走大会が行われました。暑からず寒からずの駅伝日和のもと、地区対抗では6区21.5km、高校・大学・一般は5区22km

をたすきでつなぎました。南毛利南地区が連覇し、優勝できなかった地区はたいそう悔しがっていました。（栗山香代子議員）

厚木市の学校給食のあゆみ 「あつぎの給食-平成27年度-」より

昭和35年度～36年度	小学校6校の自校方式完全給食開始	厚木・相川・荻野・玉川・清水・南毛利
37年度～	中学校ミルク給食開始	相川中、厚木中から順次ミルク給食（脱脂粉乳）開始
39年度～	依知小、厚木小、南毛利小など近隣に新しい小学校ができて2校分の共同調理場となる	
49年度	北部給食センター開設	対象校は小学校7校。単独は玉川・南毛利・相川小に
～54年度	この間、新小学校の開設により北部給食センターや近隣の小学校の共同調理場で対応	
55年度	南部給食センター開設	南北の給食センターに振り分ける。単独調理場は依知南小・玉川小のみ
61年度	62年3月依知南小単独調理場閉鎖（単独調理場全廃）	
62年度～平成12年度	小学校全校が南北給食センターから配食	
平成7年頃～	厚木市の交通渋滞により、給食時間までに給食が届かない事態が発生	
8年度	7月 腸管出血性大腸菌O157による食中毒事故発生。児童死亡など各地で被害	
13年度～25年度	小学校単独調理場整備	13年5月上荻野小～平成25年4月厚木小学校調理場整備 23校中17校が自校式に
19年度	4月南北給食センターで全中学校の完全給食開始	

日本の給食の始まりは明治22年山形県鶴岡町の私立忠愛小学校で貧困児童へ無料で提供されました。昭和29年6月「学校給食法」が成立。厚木市では同年7月、玉川小学校で補食給食が開始されました。現在では小中学校36校全てで完全給食が行われています。

単独調理場から共同調理場へ

完全給食が始まったのは昭和36年1月、厚木小・相川小です。順次小学校給食がスタートし、中学校ではミルク給食・脱脂粉乳でし

神奈川県内では中学校給食を実施していない市町があり、住民から「中学校にも給食を」の声があがっています。
厚木市は平成19年度（2007年度）から全中学校で始めました。厚木市の学校給食の歩みを振り返りました。

O157食中毒、交通渋滞も

市は、センター方式が経費の面でも安全性でも十分だとしていましたが、平成8年7月にO157食中毒事故が発生。安全な給食への関心が高まりました。また、市内の交通渋滞の影響で給食時間までに届かないこともあり、議会でも問題になっていました。

O157事故後、国は「調理後2時間以内の喫食」という給食指針を出しました。

それを受けて、厚木市では平成13年度から小学校の単独調理場を

た。急激な人口増で小学校の増設が相次ぎ、2校での共同調理場となった学校もありました。
昭和49年に北部給食センター、55年には南部給食センターが開設し、61年度をもって単独調理場は全廃しました。

今後の給食は

子どもたちを中心に

中学校の自校化の要望に対し、市は「小学校がすべて完了した後」に検討したい」としていました。ところが、老朽化した公共施設をどのようにしていくかを検討する中で、建設後42年の北部給食センターの建替えが対象となりました。全小学校の自校化とセンターの建替えとの兼ね合いが現在の課題となっています。いずれを建設するにしろ一定の経費がかかります。子育て・教育環境日本一を目指す厚木市が子どもたちの給食をどのように進めていくのか、みんなで議論していきましょう。

再開し、平成25年度までに23校中17校が自校方式となりました。中学校では平成19年度からセンター方式で完全給食を実施しています。